

# 音楽科 学習指導案

日 時 平成20年11月10日(月) 5校時  
学 級 2年4組(男子21名 女子18名 計39名)  
場 所 矢巾北中学校 音楽室  
授業者 山口 浩子

- 1 題材名 「和楽器に親しもう」
- 2 教材名 「ぼんぼこりん」
- 3 単元について

## (1) 教材観

1年時は、箏の基本的な知識や奏法について学び、「さくら」の簡単な合奏ができるようになることを目標に取り組んだ。

平調子の、悲しげで日本的な調弦方法で和楽器の楽しさを体験するとともに、日本を代表する楽曲にふれ、日本の風土や歴史の中で育まれた伝統楽器の味わいを体験することができた。

2年時では、平調子の他にさまざまな調弦方法があり、それによって全く違った雰囲気曲調の演奏が簡単にできるという、和楽器の良さや特質を学習させたい。本教材の「ぼんぼこりん」は、岩手在住の箏曲家・松坂尚子氏の編曲による学習教材である。中学生が楽しみながら学び、いろいろな奏法をマスターすることができるのが、大きな特徴である。

箏の奏法の中でも、よく使われる「合わせ爪」「流し爪」「押し手」「かき手」「ピチカート」等の他、箏の磯を叩く独特の奏法も効果的に使われている。また、調弦方法も「四・九上がり」の明るい色彩感のある調弦で、弦の音の並びも、それだけで美しい音階となっている。簡単な奏法での練習を繰り返すことによって、達成感を持つことができる。箏の楽しさや、その特性に触れるには、よい条件を多く持ち合わせた楽曲と言える。本教材を使って和楽器に親しみ、楽しむことによって、今後の学習へとつなげていきたい。

## (2) 生徒観

1年生の楽器の学習において、「さくら」の合奏を体験している。箏の簡単な楽譜の読み方や弦の名称については既習しているが、箏の基本奏法については、まだ正しく定着していない。

手首の使い方や手の形、爪の角度など、美しい音を出すための基本奏法を軽んじて、弦の配列やリズムだけにとらわれてしまうため、箏本来の美しい音色を楽しむことができない傾向にある。

和楽器への興味・関心は高く、曲を弾くことに達成感も感じている様子なので、本教材の基礎・基本の徹底によって、より楽しく和楽器に親しむことができるものと考えられる。

## (3) 指導観

本教材における基礎・基本を、

ア 美しい音を出すための基本奏法の定着

イ 部分練習のスキルを身につけさせる

ウ グループ学習における課題解決の方法の取得

とし、目標を明確にして取り組むよう意識する。

基本奏法の習得・定着については、手の形、指の角度、手首の使い方など、具体的な方法を示すとともに、その応用として、様々な奏法を部分練習とグループでの課題解決学習において達成させていきたい。

#### 4 題材の目標

- (1) 箏独特の奏法の特徴を生かして、美しい音色や響きで演奏することに意欲的である。
- (2) 箏独特の奏法の特徴やその音色や響きの豊かさを感じ取る。
- (3) 箏独特の奏法を生かして、美しい音色や響きで演奏する技能を身につける。

#### 5 題材の指導計画と評価規準

時	指導目標	評 価 規 準		
		音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
1	・既習事項や箏独特の音色の美しさを感じ取る。	・前年度の学習を思い出し、「さくら変奏曲」を音色や響きの美しさに気をつけながら弾く ・歌いながら、グループの仲間の練習を助けることができる。	・箏の音色や響きの美しさを感じ取っている。	・正しい奏法で箏独特の音色や響きに気をつけて弾く。 ・「ぼんぼこりん」の簡単な旋律を弾くことができる。
2	・箏独特の奏法の特徴を感じ取って弾く	・「押し手」「合わせ爪」の奏法を積極的に練習する。 ・練習の成果や変化について感じ取ったことを発言する。	・弾き方による音色の違いや奏法による表現の工夫の面白さを感じ取っている。 ・押し方の加減による音程の変化に気づくことができる。	・音程の変化を感じ取りながら「押し手」を使って演奏できる。 ・「合わせ爪」の時の手や指の形をつかむ。
3		・「流し爪」「ピカト」「たたき」などの奏法を積極的に練習できる ・奏法による曲調の変化について発言できる	・「流し爪」や「ピカト」の奏法により、曲の雰囲気が華やかになることを感じ取る。 ・色々な奏法を交えることで、曲調の変化を生み出すことを知る。	・奏法による音色の違いや曲調の変化に気をつけながら、弾くことができる。 ・新しい奏法を取り入れて、一通り旋律を弾くことができる。
4 本 時	・箏独特の奏法の特徴や音色の美しさ、響きに気をつけながら演奏する。	・様々な奏法の部分練習を積極的に行うことができる。 ・演奏してみでの感想を発言できる。	・箏の音色の美しさ、楽器の奏法の特徴、表現力の豊かさなどを十分に感じ取って表現を工夫している。	・箏の音色の美しさや奏法の特徴、表現力の豊かさなどに気をつけて演奏する技能を身につけている。

#### 6 本時の指導計画

##### (1) 指導目標

- ア 箏独特の奏法による美しい音色、響きを感じ取って表現の工夫をする。
- イ 箏独特の奏法を生かして、美しい音色や響きで演奏する。

(2) 指導の構想

ア 展開部での、具体的練習方法について

- ① 本教材で新しく学習した様々な奏法について部分練習をさせながら、それらが生み出す音の特徴や曲の変化について、あらためて感じ取らせる。
- ② 同じグループの仲間への支援の方法を具体的に示す。

イ 奏法の習得と定着がスムーズになるように

- ① 「合わせ爪」「かき手」「流し爪」の時の手や指の形を、具体的にわかりやすく範奏し、手や指の形、弦にあたる爪の角度などを想起させながら、練習に取り組ませる。

ウ 曲調の変化や奏法による表現の面白さを味わわせるために

- ① 部分練習の中で、様々な奏法を練習した上で通し練習を行い、できるだけ達成感を味わわせる。また、合奏の中で音色や曲の雰囲気は刻々と変化していく面白さについて感じ取らせるように授業を組み立てる。

エ 終結部では

- ① 学習の成果を振り返り、感受したことを言葉にして伝え合う場を設定する。

(3) 具体の評価規準

	具体の評価規準		C (努力を要する生徒への手立て)
	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	
感受や表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾き方による音色の違い、奏法によるいろいろな変化に気づきながら表現を工夫している。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (発言例)「合わせ爪」をしっかり弾くとハーモニーができて深みのある音になることに気づき、手や指の角度を工夫してみました。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範奏やグループ内の仲間の演奏を聴き、評価したり自分の演奏に取り入れようとしている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (発言例)「流し爪」はクライマックスに向かって曲を華やかに盛り上げていくので、スピード感を出して弾くように心がけました。                      (発言例)「いそ」は打楽器のような効果を持っているので、急がずしっかりしたテンポで弾いた方がよいと思いました。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾き方による音色の違いを聞き分けている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (発言例)「合わせ爪」の奏法によってできる和音で音の厚みができたり曲に深み加わると感じました。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範奏やグループ内の仲間の演奏を聴き、自分の演奏に取り入れようとしている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (発言例)合奏の時の A さんの演奏を聴いて、「流し爪」は曲を華やかに盛り上げる効果があると感じました。                      (発言例)「いそ」は聴いている人をハッとさせる効果があると感じました。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・範奏し、個人指導で指や手首の使い方の違いを感じさせる。</li> </ul>
表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい基本奏法で美しい音色をもって箏の演奏をしている。</li> <li>・様々な奏法を身につけ、豊かな表現で演奏している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい奏法に気をつけて演奏している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・範奏しながら、個人指導で正しい指の形、手首の使い方演奏できるよう導く</li> </ul>

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点（方法）
導入	○ 音階練習  1 学習課題の設定	・「アタック 5」  ・「ぼんぼこりん」を合奏し、新しく学習した奏法を思い出す。	・弦の番号の確認とピッチの調整を兼ねて行う。  ・奏法の名称と弾き方の関連から課題解決への糸口に気づかせる。	
10分	学習課題：様々な奏法による表現をマスターして、合奏を楽しもう。			
展開	2 課題解決の予想  3 学習課題の追究  4 学習課題の解決	・それぞれの奏法の範奏を聴く。  ・部分練習の仕方を確認する。  ・グループ練習をする  ・練習の成果を、部分的に弾いて確かめる。	・それぞれの奏法の効果と具体的な弾き方を示す。  ・効果的な練習とグループでの援助の仕方を明確にする。  ・箏を使って練習する生徒と、支援する生徒の関わり方を指導する  ・グループの仲間を支援しながら弾き方の復習をさせる。	<b>【感受・工夫】</b> ・各奏法による表現の効果を感じ取ることができたか。  <b>【感受・工夫】</b> ・練習前を練習後の音色の違いを聞き取り、手や指の形を工夫できる。  <b>【表現の技能】</b> ・「合わせ爪」「押し手」「流し爪」「ピカト」の奏法を身につけることができたか。
30分				
終結	5 まとめと確かめ  ○ 次時の予告	・通し合奏をする。  ・季節の歌の伴奏としての、和楽器の楽しみ方について知る。	・部分練習を中心に行うことで、通しの合奏がスムーズに楽しく行えることに気づかせる	<b>【表現の技能】</b> ・練習で身につけた奏法を使って、豊かな表現で演奏することができたか。